【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成18年5月11日(2006.5.11)

【公開番号】特開2001-142091(P2001-142091A)
【公開日】平成13年5月25日(2001.5.25)
【出願番号】特願平11-322919
【国際特許分類】
Ｇ０２Ｆ　1/1347　(2006.01)
Ｇ０２Ｆ　1/13　(2006.01)
Ｇ０３Ｂ　21/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０２Ｆ　1/1347
Ｇ０２Ｆ　1/13　５０５
Ｇ０３Ｂ　21/00　Ｄ

【手続補正書】
【提出日】平成18年3月10日(2006.3.10)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】　第１及び第２の偏光板間に映像信号に応じて光源の光軸方向に出射した光を変調する液晶パネルを設けた液晶プロジェクターにおいて、前記第１の偏光板と前記液晶パネルと間に前記液晶パネルに対して、前記液晶パネルとは配向方向が同じで、ツイスト方向が同じである補正用液晶パネルを前記光軸を中心に略１８０度回転して配置して設けたことを特徴とする液晶プロジェクター。
【請求項２】　第１及び第２の偏光板間に映像信号に応じて光源の光軸方向に出射した光を変調する液晶パネルを設けた液晶プロジェクターにおいて、前記第１の偏光板と前記液晶パネルと間に前記液晶パネルに対して、前記液晶パネルとは配向方向が表裏逆で、ツイスト方向が逆である補正用液晶パネルを前記光軸を中心に配置して設けたことを特徴とする液晶プロジェクター。
【請求項３】　請求項１又は２記載の液晶プロジェクターにおいて、前記補正用液晶パネルは、電圧駆動により、液晶分子を最適な補正のできる配列状態にできるようにしたことを特徴とする液晶プロジェクター。
【請求項４】　請求項１又は２記載の液晶プロジェクターにおいて、前記補正用液晶パネルは、液晶分子が最適な補正のできる配列状態で硬化されていることを特徴とする液晶プロジェクター。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１９】
【課題を解決するための手段】
本発明液晶プロジェクターは、第１及び第２の偏光板間に映像信号に応じて光源の光軸方向に出射した光を変調する液晶パネルを設けた液晶プロジェクターにおいて、この第１の偏光板と前記液晶パネルと間にこの液晶パネルに対して、この液晶パネルとは配向方向

が同じで、ツイスト方向が同じである補正用液晶パネルをこの光軸を中心に略１８０度回転して配置して設けたものである。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２０】
　また、本発明液晶プロジェクターは、第１及び第２の偏光板間に映像信号に応じて光源の光軸方向に出射した光を変調する液晶パネルを設けた液晶プロジェクターにおいて、この第１の偏光板とこの液晶パネルと間にこの液晶パネルに対して、この液晶パネルとは配向方向が表裏逆で、ツイスト方向が逆である補正用液晶パネルをこの光軸を中心に配置して設けたものである。